

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：商工費 項：観光費 目：観光開発費

事業名 木曾川中流域観光振興推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

観光国際部 観光国際政策課 サステイナブル・ツーリズム推進室 サステイナブル・ツーリズム推進係

電話番号：058-272-1111(内3915)

E-mail：c11334@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 20,000 千円 (前年度予算額： 20,000 千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国庫支出金	分担金負担金	使用料手数料	財産収入	寄附金	その他	県債	一般財源
前年度	20,000	20,000	0	0	0	0	0	0	0
要求額	20,000	0	0	0	0	0	0	0	20,000
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

木曾川が育んだ豊かな自然や歴史、文化など、木曾川中流域ならではの資源を活用した「にぎわい創出」による誘客促進及び観光消費額の拡大を図るため、流域5市町(美濃加茂市、各務原市、可児市、坂祝町、犬山市)の官民連携組織「木曾川中流域観光振興協議会」をR3.7月に設立。R4.3月には「木曾川中流域観光振興ビジョン」、同5月には「木曾川中流域観光フラッグシップ事業計画(令和4~6年度)」を策定したところ。

令和6年度は本計画の最終年度であり、さらに、本計画に定めるフラッグシップイベントは「清流の国ぎふ」文化祭2024の地域文化発信事業に位置づけられている。そのため、3年間の取組みの集大成として、木曾川文化を大々的に発信し、ビジョンに掲げる統一コンセプト「日本ライン・KISOGAWA リトリート・パークづくり」に向け、官民連携の取組を展開し、中流域全体の機運醸成と誘客促進につなげる。

(2) 事業内容

- ①フラッグシップイベント開催事業(15,433千円)
- ②PRツールの制作(4,000千円)
- ③「木曾川中流域観光振興協議会」開催(567千円)

(3) 県負担・補助率の考え方

本事業は複数市町にまたがる観光の振興を目的とする事業であり、県負担は妥当

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	74	「木曾川中流域観光振興協議会」座長謝金
旅費	293	協議会座長、職員旅費
使用料	200	会議室使用料
消耗品費	823	ノベルティ作成
委託料	18,610	イベント開催、PRツール制作
合計	20,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略

3 地域にあふれる魅力と活力づくり

(2) 次世代を見据えた産業の振興

④世界に選ばれる持続可能な観光地域づくり

(2) 後年度の財政負担

短期的に達成できるものではなく、一定期間、継続して行う必要がある

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

大阪・関西万博を見据え、中流域5市町の官民が連携し、統一コンセプトに基づく取組を展開することで、国内外からの観光誘客及び観光消費額の拡大を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R9)	達成率
①観光消費額		2,702億円	2,900億円	3,100億円	3,600億円	75.1%
②観光入込客数 (実数)		4,263万人	4,750万人	4,800万人	5,300万人	80.4%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	
令和3年度	<p>木曾川中流域の誘客促進及び観光消費額の拡大を図るため、流域5市町の官民連携組織「木曾川中流域観光振興協議会」をR3.7月に設立。協議会の統一コンセプトや今後の方向性を定めた観光振興ビジョンをR4.3月に策定した。 10～12月には「にぎわい創出」に向けた連携イベントを実施した。</p> <p>指標① 目標：1,900億円 実績：1,721億円 達成率：90.6%</p>
令和4年度	<p>木曾川中流域の誘客促進及び観光消費額の拡大を図るため、木曾川中流域観光振興協議会を、R4.5月、R5.1月に開催。 また、にぎわい創出に向けた連携イベントを11月に開催するとともに、木曾川中流域の新たな観光コンテンツの造成に向けた事業を実施した。</p> <p>指標① 目標：2,400億円 実績：2,702億円 達成率：112.6%</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <small>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</small></p>	
(評価) 3	<p>木曾川中流域の周遊性を高め、エリア全体の「賑わい創出」を図るためには、流域5市町の官民連携による取組が不可欠。</p>
<p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <small>3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 2	<p>官民連携組織の設立、観光振興ビジョンの策定により、関係者間の合意形成がなされ、5市町連携による新たな取組がはじまっている。</p>
<p>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) <small>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</small></p>	
(評価) 2	<p>随時、5市町の実務者会議（課長クラスの会議）を開催し、情報共有、意見交換を行いながら取組みを進めている。</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 木曾川中流域の認知度向上及びブランド力強化 ・ 持続可能な観光地づくりに対する地域の理解促進及び機運醸成
--

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p> <p>引き続き、統一コンセプトに基づき、5市町が連携した取組を展開する。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	